若葉台地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２６年７月１８日（金）　１９：００～２０：００
２　会　場　若葉台地区公民館
３　出席者　地元出席者　　７２名
市側出席者　　１１名
深澤市長、羽場副市長、高橋防災調整監、田中企画推進部長、藤井都市整備部長、神谷教育委員会事務局次長、高橋秘書課長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、田中協働推進課主事

４　地域の課題について

１　消防署誘致について

＜地域課題＞

当初の若葉台地区造成・入居誘致の約束であったこの件について、質問・回答を重ねているが、なかなか納得のいく回答を頂いていない。我々は、宅地開発縮小・中学校建設中止等の約束に対し、譲歩をしている。

昨年度、住宅の直ぐ側の山林（住所は生山）で火災が発生した際、多くの住民から不安の声が上がり、やはり消防署が必要である。

新市長になられて、改めてお考えをお聞きしたい。

＜担当部局の所見等＞

【防災調整監】

ニュータウン事業の計画において、消防署（所）の設置については盛り込まれていません。

現時点において、消防署は、東部広域行政管理組合消防局において整備されており、地区の人口の推移、地形、交通網、災害発生状況等を考慮して、必要に応じて検討されるものと考えています。

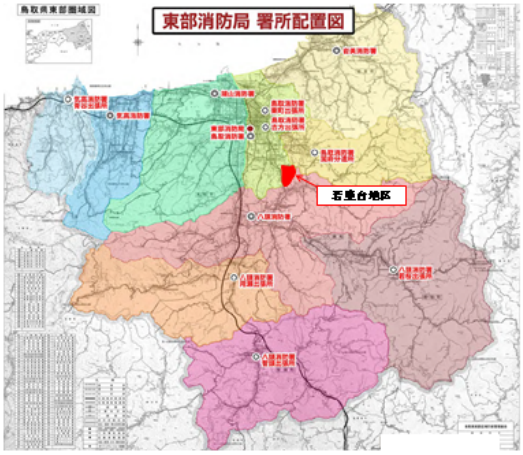
なお、喫緊の課題でもある消防庁舎の耐震化について検討し、平成２６年１月に策定された「消防庁舎整備方針」では、消防署の配置については、現在適正に配置されているものとされています。

（防災調整監）

消防署については、東部の１市４町で構成する「鳥取県東部広域行政管理組合」が消防業務を行っています。東部広域ではこのたびの東町出張所の建て替えに伴い、本年１月に消防庁舎の整備の基本方針を策定されました。基本方針の中で、消防署についてはおおむね適正に配置されているとし、現行の配置のままとする方針が示されました。

配置の見直しの中では、若葉台地区に一番近い吉方出張所から若葉台まで約１０分で到着するとされています。市内の他の新興住宅地においても、北園ニュータウンが東町出張

所から約１０分、また美萩野の新興住宅地も湖山消防署から約１０分程度で到着ということから、おおむね適正妥当な配置であるという結論が得られたと伺っています。



（地元意見）

１０分圏内ということですが、今後の道路拡張や山陰道の開通などにより世帯数が大きく変わっていくこともあると思うのですが、世帯数についてはどのように考えているのでしょうか。

（防災調整監）

東部消防署に確認したところ、消防署の設置に関する国の基準があり、市街地の消防署については人口１万人あたり１署所という基準があるとのことでした。

（地元意見）

片道１０分ならば、往復２０分で病院に到着する計算になります。若葉台も高齢化しており特別養護老人ホームもあるため、最近では救急車がよく来ます。例えば津ノ井の辺りに、簡易の出張所を設けることはできないでしょうか。

（深澤市長）

東部広域行政管理組合は、署、それから出張所、分遣所を含めて１２署所あります。今回も東部広域行政管理組合で検討会を設置され、１２署所の配置の見直しと新たな署所の設置や統合についても検討されました。消防車や救急車を１台配置することになると人員も何名か必要になりますので、現時点では少し難しい印象を持っています。

将来、道路の状況や市街地の連担性などが変化してくることがあると思います。今後も、東部広域行政管理組合の検討会の中で随時検討や議論がなされることと思いますので、ご意見として承らせていただきたいと思います。

（地元意見）

地図で見ると、若葉台は吉方出張所より国府の方が近いと思います。吉方からわざわざ１０分かかって来るより、国府からすぐ来ていただいた方がいいです。そのような配慮はできませんか。

（防災調整監）

一応それぞれの署所に管轄区域はありますが、吉方出張所が出払っている場合には他の所が対応します。吉方の管轄だから吉方以外からは来ないということではありません。

２　ＪＲ若葉台駅建設について

＜地域課題＞

この件も当初の計画の一つであったが、ＪＲ側より傾斜地に駅の建設はできないと回答があった。しかし、この度面影、津ノ井、米里、若葉台各自治会合同の提案で、ＪＲ因美線高架延長の陳情に動いている。高架により、通勤時の渋滞緩和、小中学生の通学路の安全確保、若葉台駅の建設が可能となるため、若葉台駅の建設を強く希望する。

この件について、市・新市長のお考えをお聞きしたい。

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

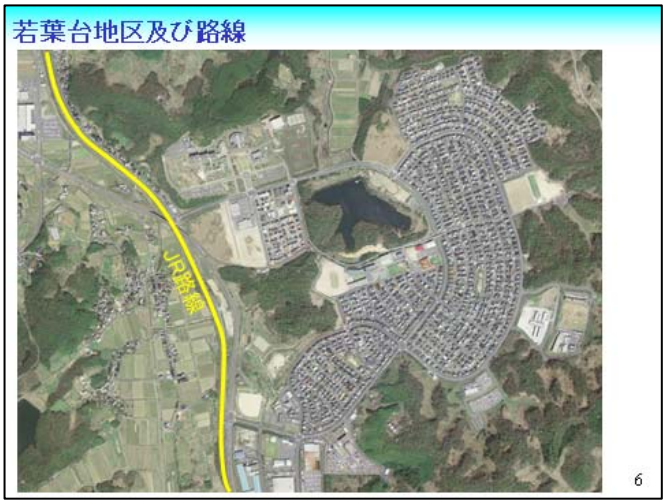
鉄道高架橋については、整備に莫大な費用と長期の事業期間が必要になり、事業実施には、相応の事業効果が必要となります。

また、若葉台に新駅を設置することにつきましては、昭和６１年以降ＪＲ西日本と協議を行ってきたところですが、駅設置費用と管理費用の全てを地元が負担することを求められています。

さらに、新駅を開設しても、既存駅（津ノ井駅、東郡家駅）の利用者が分散するにとどまり鉄道利用客の総量の増加が期待できないため、採算がとれる見込みがないなどの指摘を受けております。

このような状況から、新駅の設置については困難であると考えます。

なお、若葉台地区の交通アクセスについては、公共交通機関として路線バス若桜線と若葉台線が１日５２便運行しており、バスの利便性が高いものと認識しています。



（都市整備部長）

鉄道高架橋は、踏切解消による道路交通の円滑化が見込まれる一方で、整備については極めて大きな費用と長期にわたる事業期間が必要です。また、事業実施には相応の事業効果も必要となります。若葉台新駅を設置することについては、昭和６１年以降、ＪＲ西日本と本市が協議を行ってきたところですが、駅の設置費用と管理費用の全てを地元が負担することを求められています。さらに、新駅を開設しても既存の津ノ井駅や東郡家駅の利用者が分散するにとどまり、鉄道利用者全体の人数の増加が期待できないため、採算が取れる見込みがないなどの指摘を受けています。このような状況から、新駅の設置については困難であると考えます。

なお、若葉台地区の交通アクセスについては、公共交通機関として路線バスの若桜線と若葉台線が１日５２便運行しており、バスの利便性は高いものと考えています。

（地元意見）

ＪＲ側の考え方はあるにしても、若葉台に新駅が本当に必要かどうかという部分について、市として考えはお持ちなのでしょうか。採算の取れない駅は全国に多くあると思いますが、その駅がなくなることはありません。市として本当に駅が必要なのか、前向きに検討してほしいです。

（深澤市長）
この課題については、以前から検討してきた経緯があります。若葉台は、平成元年７月に街開きをしてから２５年が経過しました。現在では環境大学も設立され非常に多くの皆様がお住まいになっていますから、駅の必要性については従来から認識しています。しかし、設置費用や管理費用については全部地元負担ということもあり、なかなか現実には難しいと考えています。

（地元意見）
他府県だと、駅周辺に住宅や商店が並んでいます。ところが、鳥取は住宅も商店もバラバラです。駅を造って周辺をどう整備していくかという発想が必要ではないでしょうか。せっかく鳥取大学と環境大学があるのだから、大学間の交流を増やしたり、例えば学生が多いことを活かして若い世代に向けた飲食店を作ったりすることで地域の発展を計画していくなどして、若葉台駅の新設や鳥取郡家間の複線化などを考えることはできないでしょうか。

（都市整備部長）
鳥取市では、「鳥取市中心市街地活性化基本計画」を作り、鳥取駅を中心として賑わいが創出できるようなまちづくりを進めています。それ以外の各駅については、駅を中心としたまちづくりはまだ行っていません。

（深澤市長）
複線化、電化、高架化も含めて非常に大きな事業になりますので、具体的に進めていくことは、現状では困難です。しかし、その必要性について機会があるごとに示していくことは大切だと思います。特に因美線の踏切等では若葉台地区以外にも危険な所があり、それぞれの地元の皆様から危険箇所の解消に関する要望や高架化を進めてほしいといった声も聞いています。すぐには解決や実現が難しいことについても、関係先に対して継続して要望等を届けていきたいと思っています。なかなか一挙には難しいですが、将来は因美線の高架や電化などについても検討していくべきではないかと思います。

５　市政の課題についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）
ＪＣＢが、今後４００名を雇用することが決まっています。この会社の就業時間は午前９時から午後５時までですから、通勤時間には同時に４００台の車が出入りをすることが考えられます。環境大学も公立化となり生徒も増えてきます。こういったこともふまえて交通の便について考えていただきたいです。

（都市整備部長）
　４００人というのは一度に雇用されるのではなく、順次増やしていかれるということです。今後の交通の状況を見ながら、関係機関および警察や道路管理者で協議し、対応を考えたいと思います。

（地元意見）
　環境大学の横に生山につながる道があり、中学生の通学路になっています。この道は非常に照明が暗いです。

（都市整備部長）
　環境大学から生山に向かっていく道路には、１９基の防犯灯が設置されています。そのうち、道路課が管理している道路照明灯は６基、教育委員会が管理している防犯灯は３基、地元の方が設置された防犯灯が１基、鳥取環境大学が管理されている防犯灯が９基あります。
　この内、道路課が管理している道路照明については、今年度から順次ＬＥＤに変更し、より明るく見えるようにしていきます。教育委員会の照明灯についても、他地区も含めて年次的にＬＥＤへ変更し、安全安心な通学路の確保に努めていきたいとのことです。

（企画推進部長）
　環境大学が管理している９基については、鳥取市が設置して大学が管理しているものです。大学からは、市と同様の対応をしたいといった報告を受けています。また何基かは照明部分に草がかかっています。これは大学の敷地から生えている草ですので、大学が草刈りの対応をする予定とのことです。すでに業者の方に発注をする段取りをしていると聞いています。

（地元意見）
　防犯灯をＬＥＤにすると今より暗くなると市役所の担当課に聞きました。本当に明るくなるのでしょうか。

（都市整備部長）
　蛍光灯などの従来の照明は広範囲に光が届くタイプでしたが、ＬＥＤはどちらかというと広範囲ではなくスポット的に下を照らしますので、下の面は明るく見えるようになると考えられます。

（地元意見）
　多目的広場周辺にイノシシが出てきますので、対応をお願いします。

（羽場副市長）
　後日農林水産部長に伝えます。詳細をお聞きして対応を考えたいと思いますので、よろ

しくお願いします。

（地元意見）
住宅街の側溝のふたの上を車が通るとガタガタと非常に大きな音がするため、騒音に困っています。

（都市整備部長）
該当のふたの数が多いようでしたら、地図に落として公民館などにお届けいただければ、担当課で受け取って確認をしたいと思います。また、数が多くなく個別の対応が可能であれば、ふたの音が鳴るお宅の場所を教えていただいて直接現地を確認させていただきます。

（地元意見）
若葉台は冬に雪の捨て場がなく、非常に困っています。例えば側溝に水を流していただき、その上で各家庭が側溝のふたを外して雪を捨てられるようにしてはどうでしょうか。そして溜め池に流れるようにすれば、雪の捨て場に困らないのではないかと思います。

（都市整備部長）
この方法をとった場合、雪の時にふたを開けると閉まらなくなる可能性があります。通行される方のケガの元にもなったりしますので、ふたを外して雪を捨てる行為はやめていただきたいと思います。雪かきにより車のすれ違いができれば良いとは思いますが、他の地域では車が１台通れるか通れないかの広さの道路を雪かきされている所もあります。その辺りのご事情も考えていただき、雪を路肩に置いていただいて、なるべく道路の真ん中を通行していただくようお願いします。

（地元意見）
以前まちづくり協議会で通りの名前を募集し、いろんな通りの名前ができました。ところが、実際に今表示されているのは「わかば中央通り」だけです。この通り以外にも、「山の手通り」、「郵便局通り」など分かりやすい通り名ができているのですが、それを標示するのは問題がありますか。看板などで標示してもよいのでしょうか。
また、他の地区にも同じような名前があるという話も聞きましたが、問題があるのでしょうか。

（深澤市長）
地域で愛称を募集され使用されることは、大いに結構なことだと思います。複数の地域で同じ名前という場合もあろうかと思いますが、愛称として用いられることは特に問題がないと考えます。地元の皆様で決められることはよくありますので、使用されて構わないと思います。

（都市整備部長）
実際に、「市道山の手通り」という名前の市道が、お堀端にあります。市道名が重なるこ

とは避けなければなりませんが、それぞれの地区の方がつけられた愛称が重なることは問題ないと考えます。地域の皆様がその道を大切にしていただいているという気持ちの表れだと思います。

（地元意見）

若葉台地区では、小学校と保育園と公民館が避難場所になっています。ところが、大池の小学校側の法面は、一応整備されたものの地滑りが発生する箇所ですので、避難場所として問題があるのではないかと思います。９月１０日の防災の日に、保育園、小学校、地区住民を挙げての避難訓練を計画しています。要援護者の対応等を含め、そういう点も踏まえて検証をしようと考えています。

（防災調整監）

現在指定されている避難所については、災害の種類に応じて避難所を指定、見直しするよう法律が改正されました。例えば、洪水の場合に浸水する所を避難所にしてはいけませんが、地震にはこの避難所で良いということもあります。現在、この法律改正に基づき見直しの作業を進めているところですので、また個別にご相談をさせていただきたいと思います。

（地元意見）

若葉台、特に六丁目では以前から自主防災活動が活発です。行政との意見交換や行政からのサポートを充実させることで、自主防災力をさらに有効活用できたり地域全体としてますます活動が活発になったりするような、いわば本当の自衛消防力が上がるようなことができないでしょうか。地域が行政に全てお願いするのではなく、地域と行政が協働で取り組む、いわば鳥取スタイルの消防体制のようなものを今後研究することによって新しい流れが出てくれば、良い取り組みだということで他地区にも広がっていくのではないかと思います。「火事が出たら早く消してほしい」ではなく、「火事は絶対出さない」という地域づくりを皆が頑張っていった方が、効果的ではないかと思います。

（防災調整監）

市としては、自主防災活動に対しての支援を行っておりますし、自主防災会の連合会からの支援もあります。他にも、さまざまな補助制度や防災コーディネーターによる研修会などもあります。

この若葉台地区は、特に活発に自主防災活動をされている地区です。今ご提案いただいたような、行政と皆様とが一緒になって先進的な取り組みをしていくことについても実現できればと思っています。火事も元を正せば、火を出さないことが重要です。万が一火が出たら、消防が駆けつけるまでにできるだけ地域で初期消火を行う。それで消し止められなければ消防という流れが理想です。今後も地域でいろいろな取り組みをしていただくということで、ご提案や協議、ご相談をさせていただきたいと思います。

（深澤市長）

行政と地域の皆様との協働により自主防災力を高めていこうということで、「自助、共助、公助」ということがよく言われますが、このうち、「自助、共助」といった地域防災力の向上を図っていくことは非常に大切であると思っております。その地域防災力の要となるのが、自主防災会であり地域の消防団でありますので、今年度から支援制度等について充実を図らせていただいています。また、今後ももう少し支援等の取り組みを強化していきたいと考えているところですので、よろしくお願いします。

（地元意見）

若葉台では、鳥取市からマフラーも破れたような古い消防ポンプを３台ほど譲り受けて防災訓練に使っています。本番で使用したことはありませんが、訓練には非常に役立っています。ただ本当に古いので、もし新品を補助してもらえるのであれば替えていただきたいです。今は小型で能力の高い物があります。中古でもよいです。

（深澤市長）

防災訓練等に関して非常に熱心に取り組んでいただいていることについて、まずもって心より感謝を申し上げます。地域防災力の要は自主防災会であり、消防団です。この辺りの支援制度がまだまだ充分でないことについては私も承知しておりますので、現状を改めて確認をさせていただき、年次的にその充実を図ってまいりたいと思います。今後の検討課題とさせていただきたいと思います。

（地元意見）

鳥取市には５１の消防分団があります。千代川以西および新袋川以南に分団が配置されていると思います。ところが、若葉台には消防団がありません。危機管理課に理由を尋ねたところ、消防団を設置すると団員手当や消防車配置などに費用がかかる、また団員数や分団数に関して規約の問題があるとのことでした。

鳥取市でも湖南地区、世紀小学校区、美和校区は、学校が１つにも関わらず昔からの流れで消防分団は２つあります。また、消防署がある吉成にも美保分団があります。このような分団数を再度見直して、若葉台に消防分団を配置するような計画はできないでしょうか。津ノ井分団には５４名の団員がいます。面影は４０名です。人口を考えると、津ノ井の団員は多いと思いますが、津ノ井には小学校があるので合同で活動することは考えていないと言われました。良い方法があれば教えてください。

（防災調整監）

若葉台地区は、現在津ノ井分団の管轄区域になっています。ですから、昨年生山で発生した林野火災や、本年２月に発生した工場火災については、津ノ井分団が出動し消防と一緒に消火活動に当たりました。津ノ井分団の管轄ですから、津ノ井分団の中の班を作っていただくことは可能です。班を作るのであれば、津ノ井分団と相談をしていただくことになると思います。定数について以前説明を聞かれたとのことですが、現状では消防団員は定数を満たしておらず、不足しています。こういうことであれば、ぜひとも良い話になるようにお手伝いさせていただきたいと思います。

（地元意見）

高齢化により、若葉台北四丁目でもこの半年間で４戸か５戸、世帯数が減りました。津ノ井ニュータウンを造るときには、市も駅周辺の計画やショッピングセンターの建設計画など今後のまちづくりへのビジョンを持っていたのだろうと思います。ですが、これだけ高齢化が進行したり世帯数が減少している今、市はこれからの津ノ井や若葉台のまちづくりを改めてどう考えているのでしょうか。まちづくりは地元が考えることなのか、市の示す方向があるのかどうかを聞きたいです。

（深澤市長）

津ノ井ニュータウンは、未来のまちを造っていこうということで、地域振興整備公団事業主体で、昭和５８年から平成９年までの１５か年の計画で取り組まれたと承知しています。その当時、鳥取市は２０万都市を目指していこうという壮大な構想がありました。その核となるニュータウンを建設するという考えであったように記憶しています。津ノ井ニュータウンは、「産・学・住」が調和した未来のまちとして、無電柱化やボンエルク道路など、いろんなアイデアや斬新な考え方が取り入れられた、非常に先進的なまちです。

平成元年７月に街開きがあり現在に至っていますが、その間に社会情勢も非常に変化しました。世の中が変わってきました。新しい将来に向けたまちづくり構想を改めて皆様と一緒になって考えていく、そういった時期にあるのではないかと思っています。昭和５８年から３０年程度経過していますので、目指すべき方向について、皆様と一緒になって考えていきたいと思っています。

（地元意見）

地区要望についてです。今までいろいろな要望を出してきて、それに対する回答もいただいていますが、「平成２６年度中に実施する」などといった大ざっぱな回答が多いです。いつ実施するのか、もう少し具体的な時期が知りたいです。日にちまではいいですが、せめて何月の実施予定なのかは回答してほしいです。

（深澤市長）

もう少し具体的に納得いただける回答に改めたいと考えます。

６　市長あいさつ

本当に限られた時間ではありましたが、活発にご意見をいただき、心より感謝を申し上げる次第でございます。非常に多岐にわたってご提言をいただいたと思っております。すぐにはなかなか課題解決できないものもありましたが、将来を見据えてしっかりと目指すべき方向に向かって進んでいきたいと思っております。側溝のふたの問題につきましては、早速現地に出向かせていただいて、解決に向けて取り組ませていただきたいと思います。

これからも皆様と一緒になって地域の課題解決に取り組んでいきたいと思っております。また、今年は合併１０年という１つの大きな節目の年であります。今こそ将来に向けて、新しい鳥取市を多くの皆様の英知や力を結集して築き上げていく、そういった時期に

あると思っております。長時間非常に熱心にいろいろご議論いただきましたことに重ねて感謝申し上げまして、お礼のごあいさつに代えさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。